

論文審査の結果の要旨

論文提出者氏名 中澤 高志

本研究は、製造業研究開発技術者と情報技術者を対象に、かれらの職業キャリアと居住経歴がもつ地理的特質をライフコース概念に基づいて分析したものである。1990年代後半以降、日本の労働市場は大きな転機を迎えており、いわゆる日本的雇用体系の見直しが進められている。日本的雇用体系の下で転職なしに安定した職業キャリアを過ごす生活は、戦後日本を象徴するライフコースであり、機械関連大企業で働く研究開発技術者はその典型的な事例である。しかし、最近ではこうした日本的雇用体系は急速に崩れつつあり、新たな雇用体系の下で職業キャリアを形成する人々が増加している。本研究では、情報関連産業の情報技術者を事例として、そうした新しいライフコースを分析しようとしている。個人の職業キャリアは就職移動や転勤という形で居住経歴と密接に結びついているために、雇用体系の変化に伴うライフコースの変質は居住の地理的パターンを変化させ、結果として地域の変容をもたらす。情報関連産業が地方圏に定着しつつある今日、転職を前提とした職業キャリア形成を行なう情報技術者のライフコースの出現は、地方圏における人口の新しい定着要因として注目される。本研究では、既存の統計資料からでは把握が難しい個人のライフコースを、独自のアンケート調査で得られたデータから抽出し、マクロな社会経済的背景と関連づけて分析する手法をとることによって、近年の雇用環境の変化とライフコースの変質を地域の社会経済構造との関わりにおいて検討している。

第1章では研究の背景が示され、第2章では本研究におけるキー概念であるライフコース概念の理論的検討がなされている。第3章以下は、独自のアンケート調査に基づく、技術者のライフコースの実態分析である。最初の第3章では、個人のライフコースにおける重要なイベントとして学卒直後の就職行動を扱っている。研究開発技術者の新規学卒労働市場では、高等教育機関が個人と職を結びつける役割を果たすが、そのことが結果的に就職先の大都市圏集中を助長していると主張した。第4章では、研究開発技術者の職業キャリアと居住経歴を分析した。企業内でのキャリア形成に平行して、世帯を形成し持家を取得して大都市圏に定着して行く研究開発技術者のライフコースが、日本の産業社会の縮図として描き出されている。第5章では、地方圏のソフトウェア産業における情報技術者の職業キャリアを分析し、地方圏ソフトウェア産業の労働市場では、還流移動者が重要な位置を占めていることが示された。第6章では、九州に立地するインターネット関連企業の従業員の職業キャリアを分析した結果、こうした企業の従業員の2割程度は還流移動者であり、高学歴で情報サービス産業への勤務経験を有していることが判明した。第7章では、以上の分析の結果得られた知見の総括がなされ、社会経済的背景の変化に伴って、企業や地域を渡り歩くライフコースへの移行が進んでいることが論じられた。

以上のように、本研究は、これまで把握が困難であった個人のライフコースに関するデータを独自に収集し、組織人としての労働者から個人としての労働者へ、地方出身者の大都市圏集中から出身地定着へというライフコースの転換を、社会経済構造のマクロな変動と結び付けて提示した点で、大きな学術的貢献が認められる。

よって本論文の提出者である中澤高志は、博士（学術）の学位を授与される資格があるものと認める。